

(別記)

## 令和3年度妹背牛町地域農業再生協議会水田収益力強化ビジョン

### 1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

本町は全耕地面積に占める主食用米面積の割合が約73%で、転作作物に占める小麦、大豆、そばをはじめ水張転作である加工用米、飼料用米等が面積の多くを占めている。米の集荷施設を整備し、水稻の作付に傾注してきた地域としては、主食用米の需要が減少する中、加工用米、飼料用米、新市場開拓米等で水張面積の維持を図っていくことが重要である。

その他、麦、大豆、そば等については、透排水不良や融雪の遅れ等により単収の低下を招くなど年次による収量の変化が見られることから、暗渠等の整備や融雪促進が必要となっている。

また、複合経営の手段として土地利用型作物や施設園芸作物として、ししとう、ミニトマト、メロン、花卉等について維持拡大を目指す。

このような中、本町においても農家戸数が年々減少する一方、経営体当たりの耕地面積の拡大により生産が維持されている現状であり、さらに担い手の高齢化も懸念される状況にある。

### 2 高収益作物の導入や転作作物等の付加価値の向上等による収益力強化に向けた産地としての取組方針・目標

本町においても収益性の高い水田農業経営の推進を図るため産地交付金を活用しながら高収益作物等の作付け拡大を図っていく。

高収益作物の導入にあたっては、土地利用型作物としてブロッコリーや施設園芸としてシシトウ、ミニトマト、メロン、花き等の栽培を推進し、安定供給に向けたロットの確保による有利販売、品質の向上によるブランド化を進め、収益力の向上による経営の安定化を進める。

### 3 畑地化を含めた水田の有効利用に向けた産地としての取組方針・目標

本町は恵まれた土地資源を生かして水稻を主体とした農業が展開されており、農地の集積・集約化を進めている。その中で人・農地プランに描かれている将来像等を見据えつつ、畑作物を中心としている区画等がある場合は効率的な土地利用に配慮しながら畑地化を検討していくが、現状では畑地化を推進する予定はない。

### 4 作物ごとの取組方針等

町内の約3,086haの水田について、適地適作を基本として、産地交付金を有効に活用しながら、作物生産の維持・拡大を図ることとする。

#### (1) 主食用米

売れる米作りの徹底により米の主産地としての地位を確保する。今後は需給状況を踏まえ、集荷業者等の意向を勘案しつつ高品質、良食米の生産を推進する。

また、中食・外食のニーズに対応した業務用米の生産と安定取引の推進を図る。

#### (2) 非主食用米

##### ア 飼料用米

産地交付金を活用しつつ、実需者との結びつきの強化やコスト削減を図り、必要数量に応じた契約数量を目指す。

イ 米粉用米

現状では、作付の予定はない。

ウ 新市場開拓用米

産地交付金を活用しつつ、需要者の開拓を図り生産に取り組むこととし、必要数量に応じた契約数量を目指す。

エ WCS用稲

産地交付金を活用しつつ、地域実需者との結びつきを強化やコスト削減を図り、必要数量に応じた契約数量を目指す。

オ 加工用米

産地交付金を活用しつつ、既に取り引実績のあるルートの結びつきを強化するとともに、独自に新たな需要者の開拓を図り、必要数量に応じた契約数量を目指す。

カ 備蓄米

主食用米の需要減が見込まれる中、水張面積の維持を図りつつ必要数量に応じた契約数量を目指す。

(3) 麦、大豆、飼料作物

小麦については、品質向上に向けた圃場管理対策や病害虫対策、適期収穫と乾燥麦の受入体制の確立を図るとともに、豆類などとの間作栽培を導入した新たな輪作体系や田畑輪換体系により、均一・高品質な小麦の安定供給を行い作付増加を目指す。

大豆については、小麦と同様に品質向上に向けた圃場管理対策や消費者・実需者ニーズに即した品種選定などを推進し、適期収穫による品質向上と均質化を進め、作付増加を目指す。

飼料作物については、耕種農家と畜産農家との連携を図るため、水田の活用により牧草やデントコーン等を作付し、安定した自給飼料の確保に努める。

(4) そば、なたね

単収の安定化、生産性・品質の向上の取組みを行い、地域の実需者との契約に基づき、現行の栽培面積を維持する。

(5) 高収益作物（園芸作物等）

花き・香料作物・ブロッコリー・ししとう・メロン・ミニトマト等について、地域の振興品目とし、作付の維持、拡大を目指す。

(6) 耕畜連携

飼料用米、WCS用稲、飼料作物等について、わら利用、水田放牧、資源循環の取組を行い、耕種農家と畜産農家の連携を図り安定した生産を図る。

## 5 作物ごとの作付予定面積等

作物等	前年度作付面積等 (ha)	当年度の作付予定面積等 (ha)	令和5年度の作付目標面積等 (ha)
主食用米	2,233.0	2,087.1	2,240.0
備蓄米	31.7	42.3	30.0
飼料用米	52.8	165.4	60.0
米粉用米	0.0	0.0	0.0
新市場開拓用米	0.0	3.1	3.5
WCS用稲	12.5	13.8	10.0
加工用米	5.7	9.9	10.0
麦	471.4	528.5	460.0
大豆	102.1	104.8	120.0
飼料作物	30.0	30.9	30.0
・子実用とうもろこし	0.0	0.0	0.0
そば	62.4	36.6	44.6
なたね	0.0	0.0	0.0
高収益作物	45.3	23.1	46.6
・野菜	5.0	5.2	13.2
・花き・花木	17.3	15.7	22.0
・果樹	0.0	0.0	0.0
・その他の高収益作物	18.0	2.3	11.4
その他	0.0	20.3	0.0
・地力増進作物	0.0	20.3	0.0
畑地化	0.0	0.0	0.0

## 6 課題解決に向けた取組及び目標

整理 番号	対象作物	用途名	目標	目標値	
				前年度（実績）	目標値
1	小麦	麦収益力向上助成	単収 作付面積	(R2年度) 434 kg (R2年度) 453 ha	(R5年度) 499 kg (R5年度) 460 ha
2	大豆	大豆収益力向上助成	単収 作付面積	(R2年度) 281 kg (R2年度) 120 ha	(R5年度) 302 kg (R5年度) 120 ha
3	そば	そば収益力向上助成	単収 作付面積	(R2年度) 72 kg (R2年度) 35.7 ha	(R5年度) 82 kg (R5年度) 44.6 ha
4	花き・ししとう・ブ ロッコリ・ミニトマト・ メロン	地域振興作物助成	作付面積	(R2年度) 17.7 ha	(R5年度) 20.5 ha

5	小豆	地域振興作物助成	作付面積	(R2年度) 9.5 ha	(R5年度) 11.4 ha
6	その他野菜	地域振興作物助成	作付面積	(R2年度) 4.6 ha	(R5年度) 5.5 ha
7	飼料用米	わら利用助成 (耕畜連携)	取組面積 作付面積	(R2年度) 8.7 ha (R2年度) 54.7 ha	(R5年度) 16.7 ha (R5年度) 60.0 ha
8	飼料作物	水田放牧助成 (耕畜連携)	取組面積 作付面積	(R2年度) 0.3 ha (R2年度) 24.2 ha	(R5年度) 0.6 ha (R5年度) 30.0 ha
9	飼料作物・WCS用稲	資源循環助成 (耕畜連携)	取組面積 作付面積	(R2年度) 7.2 ha (R2年度) 33.8 ha	(R5年度) 11.1 ha (R5年度) 40.0 ha
10	地力増進作物	地力増進作物助成	作付面積	(R2年度) 0.0 ha	(R3年度) 20.3 ha
11	そば	そば作付助成	作付面積	(R2年度) 35.7 ha	(R5年度) 44.6 ha
12	新市場開拓米	新市場開拓用米 取組拡大助成	作付面積	(R2年度) 0.0 ha	(R5年度) 3.5 ha
13	飼料用米	複数年契約加算	数量	(R2年度) 364.5 t	(R4年度) 680.0 t
			取組面積	(R2年度) 52.8 ha	(R4年度) 97.0 ha
	数量		(R2年度) 363.7 t	(R4年度) 680.0 t	
	作付面積		(R2年度) 52.8 ha	(R4年度) 97.0 ha	
米粉用米	数量	(R2年度) 0.0 t	(R4年度) 30.0 t		
	取組面積	(R2年度) 0.0 ha	(R4年度) 5.0 ha		
			数量	(R2年度) 0.0 t	(R4年度) 30.0 t
			作付面積	(R2年度) 0.0 ha	(R4年度) 5.0 ha

※必要に応じて、面積に加え、当該取組によって得られるコスト低減効果等についても目標設定して下さい。

※目標期間は3年以内としてください。

## 7 産地交付金の活用方法の明細

別紙のとおり